

# ② 堤体下流面張石

## 【技術者の匠の技】

ロックフィルダムの上流面は、ダム湖の波浪による浸食や雨風による風化の防止を目的として、直径500mm～1000mm程度の大塊かつ堅硬な材料で保護されています。特に下流面は、美観や堤体変状等の早期発見に配慮し、凹凸の無い一様の面を形成する張石で保護されています。

張石は、平面を有する大塊を選別し、バックホウを用いて設計面に沿って丁寧に積み上げて、隙間には小塊を充填しています。これらの作業は、面を形成するための精度確保に加えて、堤体盛立て工程を遅延させないよう速度も要求される施工です。

大分川ダムの下流面に見えている27,383個という途方もない数の大塊で美しい面に仕上げられた張石は、壮大かつ緻密で繊細な施工技術です。

## 【完成状況】



## 【整備状況】

